

## 『古典標準』について

☆そもそも『古典標準』とは

1年生の時に使った古典の教科書(国語総合 古典編)を用いて授業を行います。

昨年度の古典の授業で取り組まなかった作品(古文・漢文)について学習していく予定です。

古典(古文・漢文)の基礎的な学習を通じて古典作品の理解をさらに深めていくことを目指します。

◎教科書以外の使用教材など

- 『新精選古典文法』
- 『精選漢文』
- 『古典単語 315』
- 『トータルサポート 新国語便覧』
- 電子辞書・古語辞典(意味が調べられるもの)

☆『古典標準』の勉強の仕方 ～作品理解から口語訳の完成までを例にして～

- ① まず作品についての知識を得ましょう。誰が作者で登場人物は誰か、どんな場面か、話題はなにかなど。ここが出来ていれば、以降の理解が大変スムーズに進みます。
- ② 次に音読。音読をすることで古文や漢文の独特のリズムに慣れること、声に出してこそ分かる歴史的仮名遣いの表現に気づくこと、わからない語句や表現を確認することができます。音読を繰り返していくうちに、作者や登場人物の心情、作品の主題などが、なんとなくつかめてくることもあります。教科書の「注意する語句」「重要語」(本文下部の\*が付いている語句)も参考にしてください。
- ③ ②で見つけたわからない語句や表現を、教科書や『新精選古典文法』『精選漢文』『古典単語 315』、電子辞書・古語辞典などで調べます。教科書の「語注」(本文下部の①②…が付いている語句)を大いに活用しましょう。古文の「文法」、漢文の「句法」はとくに大事なところです。意味や例文が複数提示されていて迷うこともありますが、①で得た登場人物や場面、話題など予備知識を活用して丁寧に調べ、考えましょう。ここはじっくり取り組むところです。
- ④ 次は内容の理解です。教科書の「発問」(本文下部の① ②…が付いている問い)をやってみましょう。③で得た知識が大いに役立つことが実感されます。
- ⑤ 最後に口語訳をします。①～④までの作業や学習で得た知識を総動員して仕上げましょう。助詞の意味や用法に注意してください。会話などは人物が省略されていることが多いので( )書きで人物名を補うなどします。だれが見ても分かる口語訳を目指しましょう。

★『古典標準』では、①～⑤までを自分ひとりで出来るようになるのを目標にしたいと思っています。インターネットなども有効に活用して自学自習に取り組んでいきましょう。

★自学自習におすすめ！

『NHK高校講座 国語総合』 3学期 70回 『筒井筒』(1)  
71回 『筒井筒』(2)

『NHK高校講座 古典』 1学期 14回 『朝三暮四』

○『NHK高校講座』のホームページから『国語総合』・『古典』を選択します。音読があり、「学習メモ」で内容の理解を深め、「理解度チェック」で確認することができます。どの時間帯でも、何度でも学習することができます。昨年度学習した古典作品もあり復習にも使えますね。1放送はだいたい20分ぐらいです。

『筒井筒』で、なぜ男が、2番目の女からもとの女に戻ったのか。その理由も説明されていますよ。